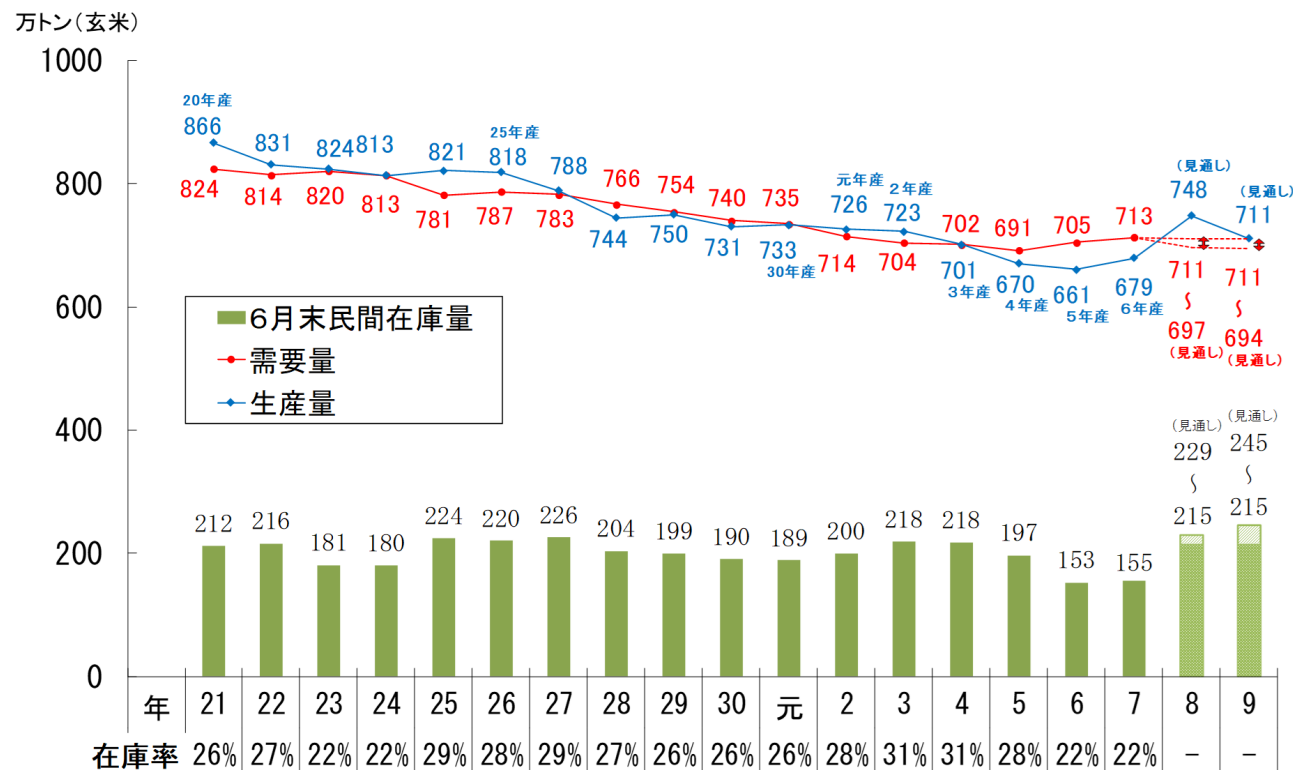


米の需給状況の現状について

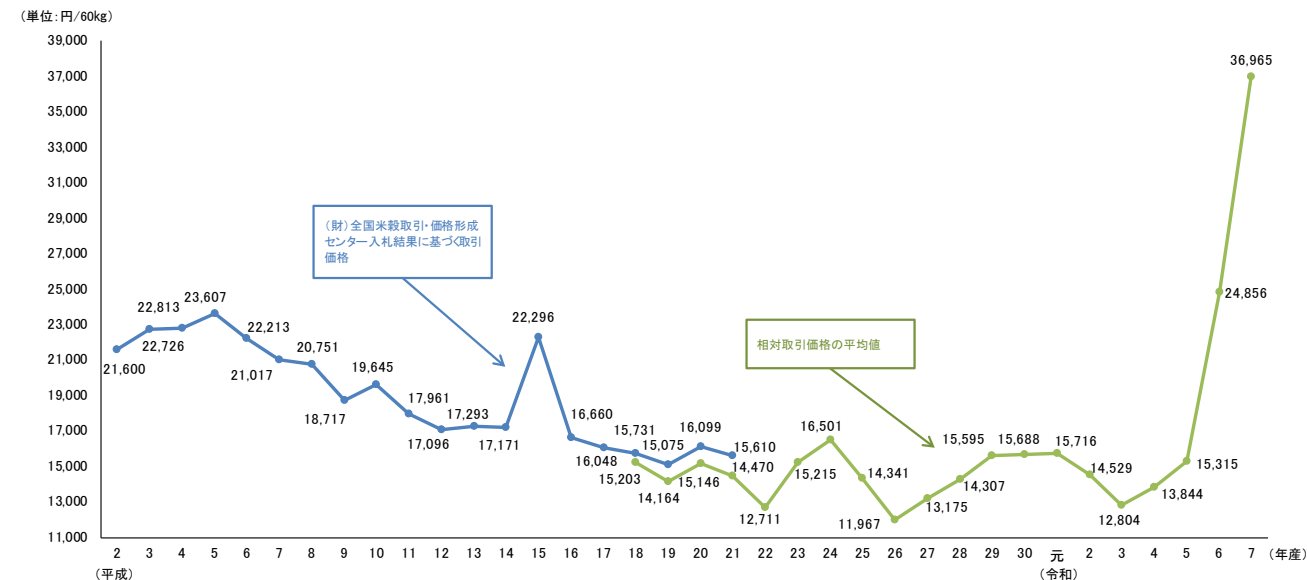
(1) 最近の米の需給動向(需要量、生産量、民間在庫)

- 需要量は、令和5年と比較して、令和6年、7年は増加。その主な要因は、高温障害等により精米歩留りが悪かったことから、玄米ベースでの必要量が増加したこと(供給面の要因)に加え、インバウンド需要や、家計購入量の増加など一人当たり消費量の増加によるものと考えられる。
- このため、生産量は需要量に対し不足し、民間在庫を取り崩し、需要量に見合う供給量を確保せざるを得なかったため、令和6年及び7年の6月末民間在庫量は近年では低い水準となった。
- 令和7年産の主食用米は、平成29年以来最高の見込みとなること等から、令和8年6月末の民間在庫量は、令和7/8年需給見通しで示している「215～229万玄米トン」と見込んでおり、仮に229万玄米トンに達した場合、直近10年程度で最も在庫水準が高かった平成27年の226万トンに匹敵する水準。



(2) 米の価格の推移

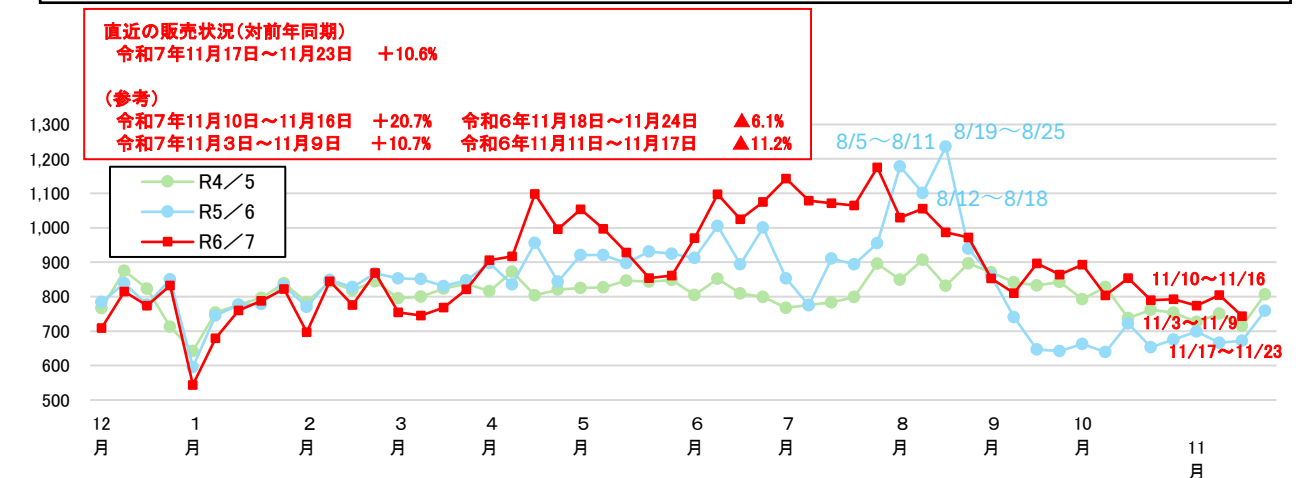
- 令和7年産米の令和7年10月までの年産平均価格36,965円/玄米60kgは、出荷業者と卸売業者等の間の取引価格としては、比較可能な平成2年以降で最高価格を更新。



注: 年産別平均価格(令和6年産及び令和7年産は、出回りから令和7年10月までの速報値)。

(3) スーパーでの販売数量の推移(POSデータに基づき作成、全国・週次)

- 令和6年4月以降の販売量は、令和4年及び5年と比較して堅調に推移。
- 令和6年8月に買い込み需要が発生したこと等により伸びが著しい週が3週継続した後、概ね前年同程度か、前年を下回る水準で推移。
- 政府備蓄米の流通が進んだ令和7年4月以降は増加傾向で推移し、8月以降はピーク時に比べ低い水準が継続。
- 令和7年11月17日～11月23日の販売数量は対前年同期+10.6%。



資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータ(全国約1,000店舗のスーパー、生協等)に基づいて農林水産省が作成。
注: 週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは異なる場合がある。